

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Amsterdam Ave. & W 72nd St.

《アッパー・ウエスト・サイド》

今回は4年間暮らしたニューヨーク市マンハッタン区の地区の1つ、アッパー・ウエスト・サイドの話。

ニューヨークで生活しているとそれぞれミッドタウンやイースト・ヴィレッジ、アッパー・イースト・サイド等々、住んでいる場所を尋ねられると自分の住居がある地区で答えたりすることが多かった。4年の間、アパート内で2階から4階に部屋を1度だけ移動したのみで、一度も引っ越すことなくずっとアッパー・ウエスト・サイドで生活していた。

アッパー・ウエスト・サイドの東端はセントラル・パーク、西端はハドソン川、南端は西59丁目、北端は西116丁目と囲まれた地区を指すとされている。今も変わらないかもしれないが、当時は他の地区に比べて比較的のんびり

とした雰囲気があった。だからだろうか、特に自分が住んでいた辺りは老人の姿が目立った。

スーパーに買い物行っても、時間帯によっては巨大なカートを押す多くの老人が行き交う場面に出くわしてしまい、そのカートを交わすだけでもうんざりしてしまうこともあり、72丁目にあったマックでは午前中の早い時間帯はコーヒーをゆっくりと味わいながら佇む老人の姿ばかりが目立つような場所だった。ある意味、平和的だったともいえるが…。

4年間で大きなニュースになるような殺人事件なども起こらなかった（ニュースになっていないだけの可能性も大きい）が、アッパー・ウエスト・サイドといえば、あのジョン・レノンが暮らしていた高級集合住宅で、1980年にジョンが銃弾に倒れた現場ともなったダコタ・ハウス（セントラル・パーク・ウエストと72丁目 & 73丁目）があるが、セントラル・パークの直ぐ脇の通りであるセントラル・パーク・ウエスト辺りには、その他にも多くの有名人が暮らしていたようだ。

当時はマドンナやアーノルド・シュワルツェネッガーが住んでいると噂されていたが、本人たちに遭遇することは一度もなかった。ジャズの世界では、マイルス・デイヴィスが1980年代中頃までの25年近く、77丁目のウエスト312に住むアパートに暮らしていたことでも知られ、今年5月26日に77丁目のリバーサイドとウエスト・エンドの間の通りが『マイルス・デイヴィス・ウェイ (Miles Davis Way)』という名称になることが正式に発表され、除幕式に数百人が集まった。

音楽といえば、当時は66丁目にタワーレコード、72丁目にHMVがあり、毎週のように通っていたが、日本でも同じように時代の流れと共にCDが売れなくなって行き、その後閉店してしまったようだ。ジャズのナンバーでは、ジョン・コルトレーンが1960年に録音したアルバム『コルトレーン・サウンド』の2曲目に収録されているコルトレーン作曲の「セントラル・パーク・ウエスト」という曲があるが、コルトレーンの美しいソプラノ・サクソで奏でられた名曲だ。他にも、ホレス・シルヴァーが1972年に録音したアルバム『イン・パースト・オブ・ザ・27th・マン』の4曲目に収録されているホレス作曲の「サマー・イン・セントラル・パーク」という曲があるが、この曲も素晴らしい名曲だ。

ニューヨークで暮らしていると自分が住んでいる地区に愛着を感じてくるものだが、デリにいた陽気なアラブ系の店員、小さなピザ屋を仕切っていたイタリア人のおじさん、お世話になった床屋のスパニッシュ系のお兄さん、あまり愛想が良くなかったテイクアウトのチャイニーズ・フード店の中国人のおばさん、コインランドリーに行くと立ち寄っていたいつも笑顔の台湾人のカフェのオーナー、仲良くなったホームレス等々、近所でお世話になった人たちのことは今でも記憶に残っている。